

だざいふてんまぐう 太宰府天満宮

所在地/太宰府市
指定/重要文化財



太宰府天満宮本殿

多くの人でにぎわう太宰府天満宮には学問の神様として広く知られる菅原道真がまつられています。神社の神様といえば神話に登場する人物を想像しますが、天満宮では実在した人が神様としてまつられています。なぜ、道真が神様になったのかを紹介します。

道真は、今から約1200年前の平安時代に生まれました。幼い頃から勉強が大変よくできる子供で、すぐれた詩や歌をつくり、まわりの人達

を驚かせました。大人になってからは、一流の学者としてだけではなく、いろんな試験に合格して、当時の都である京都で政治家としても活躍するようになります。当時の天皇の厚い信頼を受けて、どんどん偉くなり54才で右大臣という役職につきます。ところが、道真の出世をよく思わない人たちによって、大宰府に行かされました。2年後の903年、道真は都に戻れないまま大宰府で亡くなりました。道真の御遺体をのせた車を牛に引かせ運んでいたところ、牛が動かなくなりその場所に道真は埋葬されます。はじめはお墓の上に簡素なお堂を建てていましたが、天皇の命令により、お堂は立派な建物につくり替えられました。しばらくして、道真の無実が証明されると、朝廷から神様の位が贈られて「天神さま」として、太宰府天満宮をはじめ全国の神社で信仰を集めるようになりました。

戦国時代の終わりの頃、大きな戦いがあり御本殿は焼けてしまいます。その後、筑前国（今の福岡県の一部）にやって来た小早川隆景によって御本殿は建て直されました。これが今の建物です。江戸時代になると、「さいふまいり」の名で太宰府を訪れることは、全国に広がり天満宮と門前は多くの人たちでにぎわうようになりました。その信仰とお参りの習慣が今の時代に生き続けています。

【もっとくわしく調べたい】

○太宰府天満宮 福岡県太宰府市宰府4丁目7-1 TEL 092-922-8225

【行ってみたい】

○太宰府駅から徒歩約5分

○九州自動車道太宰府インターチェンジから車で約15分